



全ては利用者さんご家族のために…

こんにちは。今回は盛翔会在宅介護支援グループの紹介をさせていただきます。が、その前に、“盛翔会在宅介護支援グループ”ってなんだか長くて覚えにくい名称ですよ。ここでは、通称の“おおせ介護グループ”と表記させていただきますね。

おおせ介護グループは6つの事業所からなり、総勢64名の職員が在籍しています（令和4年10月時点）。各事業所の概要は以下の通りです。

◆ 大瀬介護保険センター(居宅介護支援事業所)

いわゆるケアマネさんが在籍する事業所です。ご利用者・ご家族の状況やご希望に応じ、訪問看護やデイサービスといった様々な在宅サービスを組み合わせた利用計画を立案します。

◆ 訪問看護ステーション大瀬(訪問看護)

看護師がご自宅へ訪問し、様々な医学的処置や各種指導・相談等に応じます。必要に応じ休日や夜間の緊急訪問にも対応します。

◆ 訪問リハビリテーション大瀬(訪問リハビリ)

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がご自宅へ訪問し、生活に必要な身体機能、動作能力維持・改善のための訓練を実施したり、能力に応じた環境調整や動作指導を行います。

◆ おおせデイサービスセンター(7時間型デイ)

グループのデイサービスの中で最も長い時間過ごしていただけるデイサービスです。そのため入浴やリハビリはもちろん、定期的な特別食の提供や屋外の外出を取り入れた活動など、“ご利用者がとことん楽しめる活動”を提供することに特化したデイサービスです。



◆ おおせ第二デイサービスセンター(5時間型デイ)

「7時間は長い。でもリハビリが充実していて、なおかつ食事も入浴も」という方に人気のデイサービスです。午後のレクリエーションもご好評いただいていますよ。

◆ きたぞうウォーク(3時間型デイ 午前/午後2部制)

“歩く”ことに特化した機能訓練中心のデイサービスです。「余計なことはしたくない。やることやって早く帰りたい」といった方に人気のデイサービスです。

おおせ介護グループが、母体である浜松北病院と同じ敷地内に設置されていることは、大変重要な意義を感じます。病院と在宅が、医療と介護が密接に連携を取ることが「住み慣れた場所でその人らしい生き方」を支える基盤になると信じているからです。私たちの専門知識や技術、経験が地域の皆さまのお役に立てるよう日々努力してまいります。全ては利用者さんご家族のために。

グループ長 前嶋 亮



〒431-3113
静岡県 浜松市 東区 大瀬町1568
TEL (053)-435-1111
FAX (053)-433-2700
Webページはこちら(QRコード) >>



翔 ぎ

はばた

2023



No. 68 新年号



浜松北病院は、令和5年で40周年を迎えます。

医療法人社団 盛翔会

浜松北病院

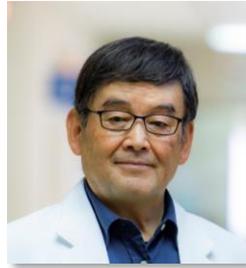
基本理念

思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実現する



医療法人社団 盛翔会

理事長 澤田 健



新年あけましておめでとうございます。

早いもので令和に入り5年目を迎えました。そして、浜松北病院はこの3月28日で40周年を迎えます。超高齢化社会の到来に伴い、療養、介護、リハビリテーション等の需要が高まりました。当初は一般的急性期医療を中心に据えた診療体制であった当院も、時勢にあわせた取り組みを積極的に行っております。

現代日本の医療政策の柱となるのが「地域医療構想」に基づく体制の確立です。高度急性期病院からクリニックに至るまで、各々の機能に応じて役割分担し、高齢者が必要とする医療・介護サービスを効率的に提供することが求められています。当院では主に、浜松医大などの大きな病院で治療を終えた患者様を受け入れ、在宅復帰や療養に向けた医療を提供する役割を担っています。スムーズな医療連携体制の構築は、今後も重要な課題です。

さて、Covid-19のパンデミックも4年目に入りました。当初は感染後すぐに肺炎に移行する、極めて病原性の高いものでしたが、感染の波を重ねるにつれ、ウイルスの変異により病原性は低下し、重症者や死亡者も減ってきています。ワクチンや治療薬の研究開発も進み、11月には国産の抗ウイルス薬が初めて承認されました。こうした流れを受け、政府も感染症分類の見直しを進めています。新型コロナウイルス感染症も近い将来、インフルエンザと同じ扱いになることでしょう。そうなれば社会活動の制限も大幅に緩和され、コロナ禍以前の日常に近づいていくものと思います。

一方で、今冬はCovid-19とインフルエンザの同時流行が懸念されています。マスクの着用は特に閉鎖空間では引き続き必要です。屋外においても冬の乾燥した

外気から上気道を守ることができます。

さてもう一つ。病院の建物も創立以来40年、同じ時間を歩んできましたので、かなり老朽化が進んでいます。今年、次世代の「浜松北病院」に向けて歩を進めるためにも、建て替え計画をスタートする「ウサギ年」としていきたいと考えております。

今年も皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

浜松北病院

院長 竹内 和彦



明けましておめでとうございます

院長に就任して2度目の新年を迎えました。昨年は新型コロナウイルス感染症クラスターや、新型コロナウイルス感染者様の受け入れなど、私達はかつてない大きな変化を経験しました。この経験は体力的にも精神的にも凶りしれない苦勞でしたが、法人内で助け合いの精神が生まれ、この難局を乗り越えたことで浜松北病院が大きく成長した年でもありました。

現在、病院の機能分化と連携強化を進め、効率的な医療提供体制を実現するための「地域医療構想」が国の主導で進められています。地域医療構想が進められる中、昨年は聖隷病院や浜松医大などの高度急性期病院から多くの患者様が浜松北病院に転院し、治療とリハビリを継続しながら療養・介護方針を整えて退院されていきました。高度急性期病院ではできない丁寧な退院支援こそが、地域医療構想実現のための浜松北病院の使命であると考えています。

浜松北病院が地域医療にとって必要不可欠な病院であり続けるために、外来では専門に特化した診療を提供し、入院では医療だけでなく患者様の価値観や生き方に沿った診療・ケア・リハビリを提供し、患者様に優しい病院となるよう努めて参ります。

本年もよろしくお願い致します。



卵 甘いか しょっぱいか

12月に入り、冷え込みが一段と厳しくなりました。家では先日引っ張り出したストーブの上で、おでん鍋がグツグツと湯気を立てています。

おでんに欠かせない卵が、先日 ニュースに取り上げられておりました。今まで物価の優等生と呼ばれ、値段も安定していた卵ですが、卸値が過去30年で最高値……との事。気が滅入ってしまいますね。

(新年号なのに暗い話からすみません)

それでもまだ卵は買い求め易い食品で、栄養価も高く優等生。お料理のバリエーションも多く重宝します。おせちの中にも伊達巻として入っていますね。

さて、皆さんはどんな卵料理が好きですか？

私は卵焼きです。簡単で幸せ感じる食べ物です。味噌汁と肩を並べるソウルフードだと思っています。とはいえ、他所で卵焼きを食べる機会はあまりないのでは？(外食くらいかな)

卵焼きは、地方・家々で味付けが全く違います。私の家は、甘い卵焼き。『甘い？気持ち悪い……』という人もいるはず。外国の方も苦手に感じる人も多いとか。逆に、しょっぱい味付けの家(地方)もある様です。中学生の頃、友達とお弁当を交換して、卵焼きの味付けが家々で大きく違う事を知りました。友達の卵焼きは、不味くはありませんでしたが、やっぱり母が作った卵焼きが一番美味しいと感じました。

職員の食事が一品足りなくなった時、私も卵を焼いたりしますが、必ず卵焼きの好みを聞きます(甘い？しょっぱい？ダシの有無です)。以前、当直の先生から『昔、お弁当に入っていた玉子焼きの味だ…』と言ってもらったのが、最高の誉め言葉でした。

皆さんも、卵焼きに限らず、大切な人の思い出の味を聞き出して料理したなら、昔談義に花が咲き、心も、お家の中も温かく幸せな気持ちになるはずですよ。

2022年は、戦争、感染症…と不安な事が多い一年でしたが、新しい年は、温かく、笑い声の絶えない平和な年にしていきたいですね。

管理栄養士 青山